

# 東和薬品株式会社 2026年3月期 決算説明会

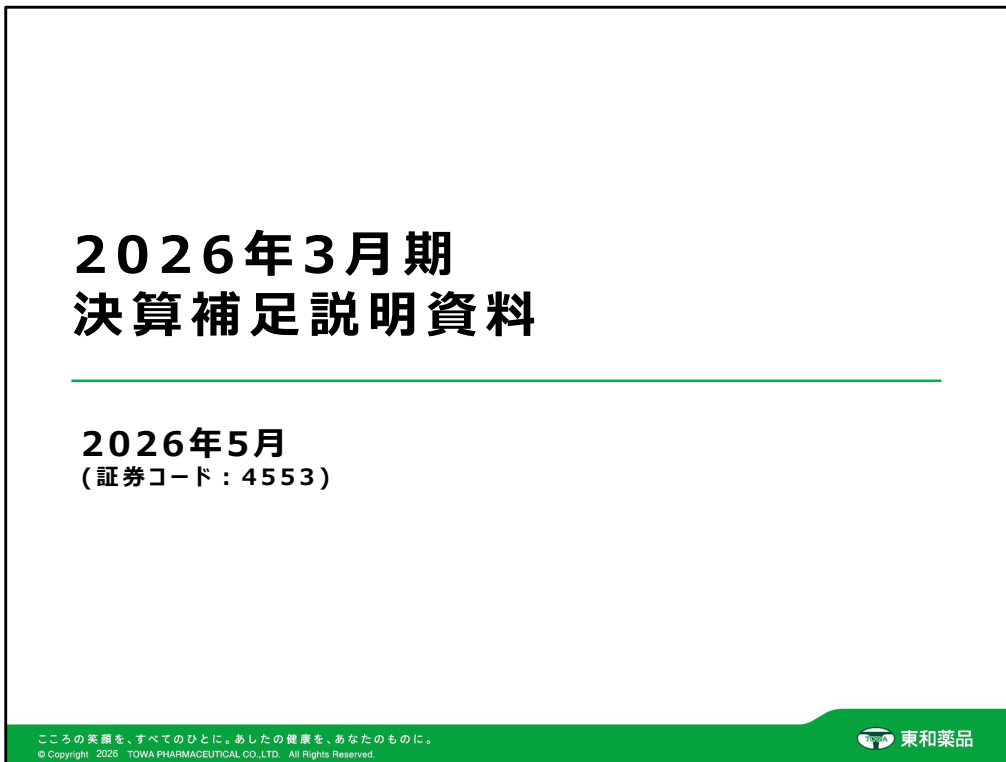
## 【概要】

日時:2026年5月18日(月)13:00~14:00

登壇者:代表取締役社長 吉田 逸郎  
常務取締役 内川 治  
取締役 國分 俊和  
取締役 竹安 正顕  
執行役員 経営戦略本部担当 中村 豪之  
執行役員 経理財務本部長 畑上 史朗  
執行役員 営業本部長 森川 正路  
執行役員 生産本部長 木坂 博和

## 【決算説明スクリプト】

※目次や参考資料など、ご説明していないスライドは省略しています。



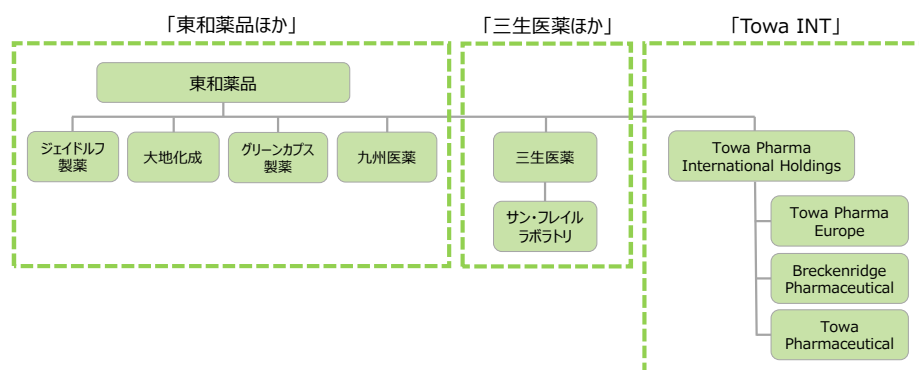
本日は、お忙しいところ ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。  
東和薬品の國分でございます。

それでは私から  
“2026年3月期 決算補足説明資料”に沿って、  
ご説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

## 決算開示資料について

### 注意事項

- 本資料内では、国内セグメントの内訳につきまして、東和薬品、ジェイドルフ製薬、大地化成、グリーンカプス製薬、九州医薬を「東和薬品ほか」と表記し、三生医薬、サン・フレイルラボラトリを「三生医薬ほか」と表記しております。  
なお、2025年4月1日に三生医薬を存続会社、カマタを消滅会社とする吸収合併を行いました。  
また、海外セグメントのTowa Pharma International Holdingsにつきまして、「Towa INT」と表記しております。
- 5月11日に、減損損失の計上および2026年3月期の通期業績予想の修正を発表しています。



それでは、スライド1ページをご覧ください。  
ご説明に先立ちまして、  
当連結会計年度の決算開示内容の前提について  
ご説明いたします。

本資料内では、国内セグメントの内訳につきまして  
東和薬品、ジェイドルフ製薬、大地化成、  
グリーンカプス製薬、九州医薬を「東和薬品ほか」と表記し、  
三生医薬、サン・フレイルラボラトリを「三生医薬ほか」と表記しております。

なお、2025年4月1日に三生医薬を存続会社、  
カマタを消滅会社とする吸収合併を行いました。

また、海外セグメントの  
トーワ・ファーマ・インターナショナル・ホールディングス及びその子会社につきましては、  
「トーワ アイ エヌ ティー」と表記しております。

なお、先週5月11日に、減損損失の計上および  
2026年3月期の通期業績予想の修正を発表しております。

## 2026年3月期 連結決算について

- 前期比：売上高は増収、営業利益は減益
- 計画比：売上高97.8%、営業利益85.6%
- 経常利益は、デリバティブ評価益を約53億円計上したことにより、増益  
(前期はデリバティブ評価益を約12億円計上)
- 当期純利益は、三生医薬ののれん減損損失を約147億円計上したことにより、減益

	26/3 実績		25/3 実績	26/3 通期計画 (2025年5月15日発表)	
	金額	前期比		金額	金額
売上高	2,737億円	+ 5.4%	2,595億円	2,800億円	97.8%
売上総利益	991億円	+ 4.6%	947億円	1,040億円	95.3%
営業利益	231億円	- 0.6%	232億円	270億円	85.6%
経常利益	280億円	+ 7.4%	261億円	253億円	111.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	52億円	- 72.3%	189億円	177億円	29.7%

期末レート (TTM) 1ドル	26/3	25/3	24/3
	159.88円	149.52円	151.41円

続きまして、スライド4ページをご覧ください。  
当連結会計年度の決算について、ご説明いたします。

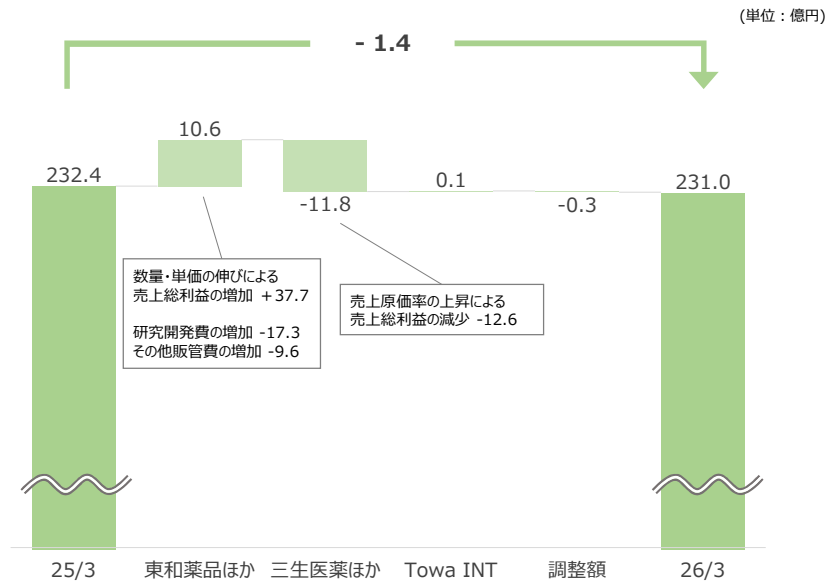
連結売上高は、約2,737億円で増収となったものの、  
通期計画は未達となりました。

連結営業利益は、約231億円で減益となり、  
通期計画も未達となりました。

連結経常利益は、  
デリバティブ評価益を約53億円計上したことにより増益で、  
通期計画を上振れる結果となりました。

連結当期純利益は、  
三生医薬ののれん減損損失を約147億円計上したことにより減益で  
通期計画も未達となりました。

## 2026年3月期 営業利益の増減要因



スライド5ページをご覧ください。  
連結営業利益の増減要因について、ご説明いたします。

「東和薬品ほか」において、  
販売数量および単価が伸長したことにより売上総利益が増加したものの、  
「三生医薬ほか」において、売上原価率の上昇により売上総利益が減少したことで、  
連結営業利益は前期比約1.4億円の減益となりました。

## 2026年3月期 決算概要（連結）

- 前期比：売上高は、東和薬品ほかにおいて販売数量・単価がともに伸びたことと、Towa INTにおいて欧州がBtoB・BtoCともに伸長したことにより、増収  
営業利益は、三生医薬ほかの事業ミックス悪化による売上原価率の上昇を補いきれず、減益
- 計画比：売上高・営業利益ともに、東和薬品ほかで限定出荷解除後の売上が想定よりも伸びなかったことと、三生医薬ほかでニューアプリケーション事業が落ち込んだことにより、計画未達

（単位：百万円，％）

	26/3 実績			25/3 実績		26/3 通期計画 (2025年5月15日発表)		
	金額	対売上 高比率	前期比	金額	対売上 高比率	金額	対売上 高比率	達成率
売上高	273,710	100.0	+ 5.4	259,594	100.0	280,000	100.0	97.8
売上原価	174,606	63.8	+ 5.9	164,865	63.5	176,000	62.9	99.2
販管費	76,001	27.8	+ 6.3	71,486	27.5	77,000	27.5	98.7
営業利益	23,102	8.4	- 0.6	23,242	9.0	27,000	9.6	85.6

スライド6ページをご覧ください。  
連結の決算概要について、ご説明いたします。

連結売上高は、  
「東和薬品ほか」で販売数量及び単価が伸長したことと、  
「Towa INT」で欧州がBtoB・BtoCともに伸長したことにより、  
前期比5.4%の増収となりました。

連結営業利益は、  
「三生医薬ほか」の事業ミックス悪化による売上原価率の上昇を補いきれず、  
前期比0.6%の減益となりました。

通期計画に対しては、連結売上高・連結営業利益ともに  
「東和薬品ほか」で限定出荷解除後の売上が想定よりも伸びなかったことと、  
「三生医薬ほか」でニューアプリケーション事業の売上が落ち込んだことにより、  
未達となりました。

## 2026年3月期 決算概要（東和薬品ほか）

- 前期比：売上高・セグメント利益は、生産数量の増加に伴い市場への供給数量が増加したこと、近年追補品の拡売によるセールスマックスの改善や仕切り価戦略の効果で単価も上昇したことにより、増収増益
- 計画比：売上高・セグメント利益ともに、市場が安定している製品などで限定出荷解除後の拡売が想定よりも進まなかったこと、近年追補品が伸びず想定よりもセールスマックスの改善が進まなかったことにより、計画未達

(単位：百万円, %)

	26/3 実績			25/3 実績		26/3 通期計画 (2025年5月15日発表)		
	金額	対売上 高比率	前期比	金額	対売上 高比率	金額	対売上 高比率	達成率
売上高	188,102	100.0	+ 6.0	177,481	100.0	196,500	100.0	95.7
売上原価	113,962	60.6	+ 6.4	107,114	60.4	118,500	60.3	96.2
販管費	47,903	25.5	+ 6.0	45,197	25.5	49,800	25.3	96.2
セグメント利益	26,236	13.9	+ 4.2	25,169	14.2	28,200	14.4	93.0

- 販売数量実績（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）  
→ **157.1億錠** 対前期**2.8%**増加 通期計画達成率**97.7%**
- 生産数量実績（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）  
→ **164.3億錠** 対前期**14.4%**増加 通期計画達成率**101.0%**

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

7

スライド7ページをご覧ください。  
「東和薬品ほか」の決算概要について、ご説明いたします。

売上高およびセグメント利益は、  
生産数量の増加に伴い市場への供給数量が増加したこと、  
近年追補品の拡売によるセールスマックスの改善や  
仕切り価戦略の効果で単価も上昇したことにより、  
前期比6.0%の増収、前期比4.2%の増益となりました。

通期計画に対しては、  
市場が安定している製品などで限定出荷解除後の拡売が  
想定よりも進まなかったこと、  
近年追補品が伸びず想定よりもセールスマックスの改善が  
進まなかったことにより、  
売上高・セグメント利益ともに未達となりました。

東和薬品単体の販売数量は157.1億錠となり、  
対前期2.8%の増加となったものの、通期計画は未達となりました。

また、生産数量は164.3億錠となり、  
対前期14.4%の増加で、計画を達成しております。

## 2026年3月期 決算概要（三生医薬ほか）

- 売上高は、国内健康食品事業が伸長したものの、ニューアプリケーション事業が失注により落ち込み、ほぼ前期並みの実績で計画未達
- セグメント利益は、利益率の良いニューアプリケーション事業の落ち込みにより、事業ミックスが悪化して売上原価率が上昇したため、大幅な減益で計画未達
- 国内健康食品事業やニューアプリケーション事業の外部環境の悪化、東和薬品とのシナジー創出の遅れにより、買収時の計画通りの業績が見込めなくなったことから、連結の特別損失にのれんの減損損失を約147億円計上（詳細は22ページに記載）

（単位：百万円，％）

	26/3 実績			25/3 実績		26/3 通期計画 (2025年5月15日発表)		
	金額	対売上 高比率	前期比	金額	対売上 高比率	金額	対売上 高比率	達成率
売上高	28,873	100.0	+ 0.9	28,621	100.0	30,200	100.0	95.6
売上原価	23,727	82.2	+ 6.8	22,208	77.6	23,200	76.8	102.3
販管費	4,285	14.8	- 1.9	4,366	15.3	4,600	15.2	93.2
セグメント利益	861	3.0	- 57.9	2,046	7.2	2,400	7.9	35.9

※のれん償却費は含みません。

スライド8ページをご覧ください。

「三生医薬ほか」の決算概要について、ご説明いたします。

売上高は、国内健康食品事業が伸長したものの、ニューアプリケーション事業が失注により落ち込んだことで、ほぼ前期並みの実績で、通期計画は未達となりました。

セグメント利益は、利益率の良いニューアプリケーション事業の落ち込みにより、事業ミックスが悪化したことで売上原価率が上昇したため、前期比57.9%の減益で、通期計画も未達となりました。

連結決算の特別損失にのれんの減損損失を約147億円計上しております。詳細はスライド22ページにてご説明させていただきます。

## 2026年3月期 決算概要 (Towa INT)

- 前期比：売上高・セグメント利益は、米国でのニトロソアミン問題による主力製品の売上悪化が続いているものの、欧州BtoBで3Qに発生した欧州のニトロソアミン基準厳格化前の駆け込み需要による受託製造の増加と、欧州BtoCで主力製品が伸びたこと等により、増収増益
- 計画比：売上高は、米国の不調により現地通貨ベースでは未達だったが、円安影響により円ベースでは計画達成  
セグメント利益は、東和薬品からのライセンスフィーが想定よりも減少したことで、計画未達  
なお、ライセンスフィーを除いた場合、セグメント利益は計画達成

(単位：百万円, %)

	26/3 実績			25/3 実績			26/3 通期計画 (2025年5月15日発表)		
	金額	対売上 高比率	前期比	金額	対売上 高比率	金額	対売上 高比率	達成率	
売上高	57,630	100.0	+ 7.0	53,865	100.0	54,600	100.0	105.5	
欧州	38,432	66.7	+ 15.4	33,296	61.8	34,200	62.6	112.4	
米国	19,197	33.3	- 6.7	20,569	38.2	20,400	37.4	94.1	
売上原価	37,237	64.6	+ 4.1	35,767	66.4	34,600	63.4	107.6	
販管費	19,933	34.6	+ 12.9	17,647	32.8	19,300	35.3	103.3	
セグメント利益	458	0.8	+ 2.0	449	0.8	700	1.3	65.6	
期中レート (TTM) 1ユーロ	26/3 174.79円	25/3 163.75円	26/3 想定レート 156.00円	期中レート (TTM) 1ドル	26/3 150.77円	25/3 152.58円	26/3 想定レート 145.00円		

※のれん償却費は含まれません。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

9

スライド9ページをご覧ください。

「Towa INT」の決算概要について、ご説明いたします。

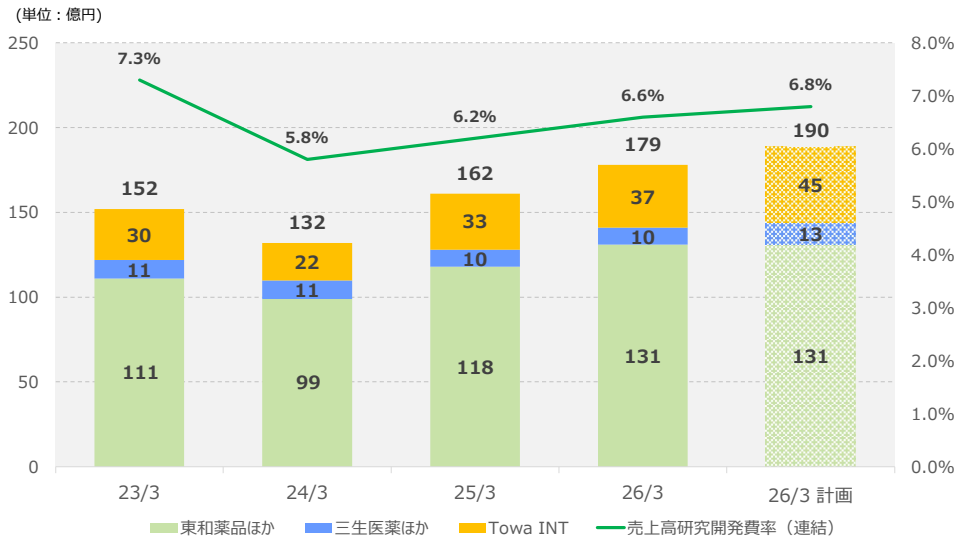
売上高およびセグメント利益は、  
米国でニトロソアミン問題による主力製品の売上悪化が続いているものの、  
欧州BtoBで3Qに発生した欧州のニトロソアミン基準厳格化前の駆け込み需要により受託  
製造が増加したことと、  
欧州BtoCで主力製品が伸びたこと等により、  
前期比7.0%の増収、前期比2.0%の増益となりました。

通期計画に対して、売上高は、  
米国の不調により現地通貨ベースでは未達となりましたが、  
円安影響により円ベースでは計画を達成しております。

セグメント利益は、  
東和薬品からのライセンスフィーが想定よりも減少したことで、未達となりました。

なお、東和薬品からのライセンスフィーを除いたセグメント利益は  
計画を達成しております。

## 研究開発費（連結）



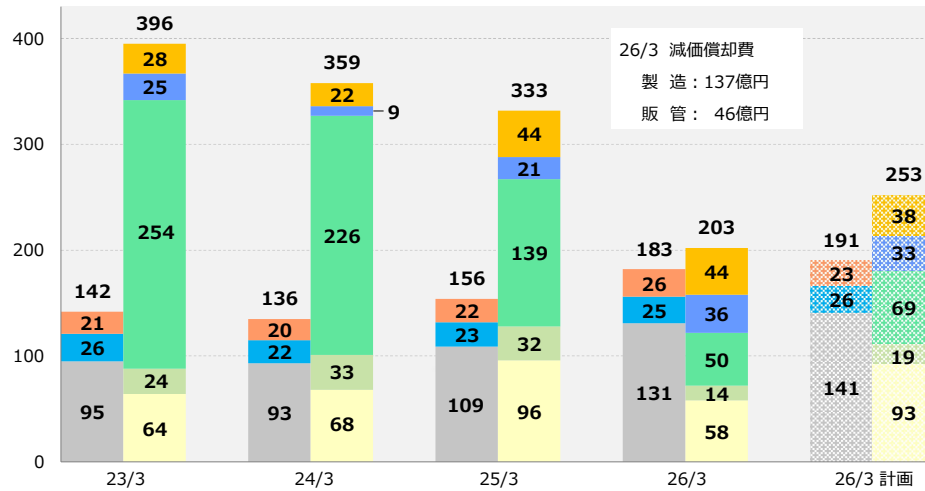
※グループ間取引消去後の数値を使用しております。  
 ※Towa INTと三生医薬の23年3月期の連結会計年度は2022年1月1日～2023年3月31日の15ヶ月となっております。  
 ※25年3月期より億円未満の端数処理方法を変更しております。

スライド10ページをご覧ください。  
 研究開発費の推移と計画との比較について、ご説明いたします。

「Towa INT」における新製品開発の遅れ等により、  
 通期計画約190億円に対して、約179億円と若干未達となりました。

## 設備投資・減価償却費（連結）

(単位：億円)



※設備投資には有形固定資産・無形固定資産の取得を含みます。  
 ※減価償却費には研究開発費を含みます。  
 ※減価償却費にはTowa INT及び三生医薬ののれん償却費を含みません。  
 ※Towa INTと三生医薬の23年3月期の連結会計年度は2022年1月1日～2023年3月31日の15ヶ月となっております。  
 ※25年3月期より億円未満の端数処理方法を変更しております。

■ 設備投資 (Towa INT)      ■ 設備投資 (三生医薬ほか)  
 ■ 設備投資 (山形工場)      ■ 設備投資 (岡山工場)  
 ■ 設備投資 (その他)      ■ 減価償却費 (Towa INT)  
 ■ 減価償却費 (三生医薬ほか)      ■ 減価償却費 (東和薬品ほか)

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

11

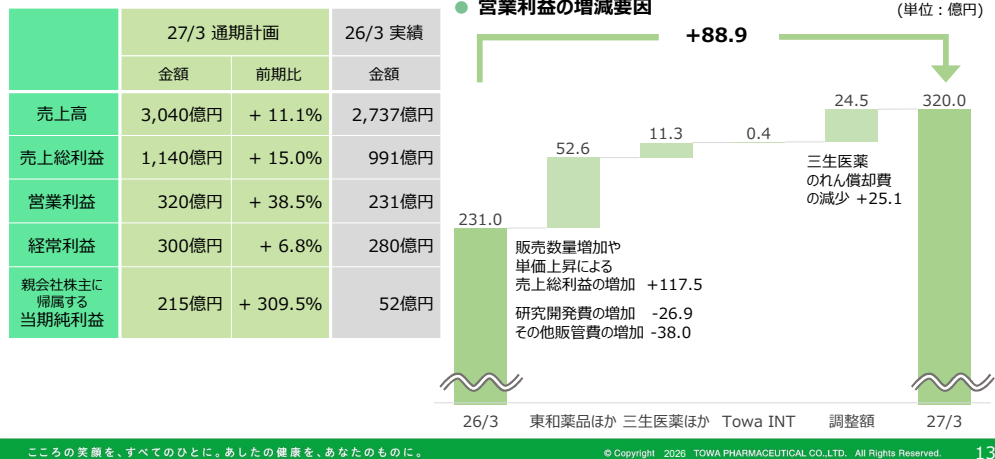
スライド11ページをご覧ください。  
 設備投資・減価償却費の推移について、ご説明いたします。

当連結会計年度の設備投資は約203億円で、  
 東和薬品の3工場における 設備導入の期ズレ等により、未達となりました。

減価償却費は約183億円となりました。

## 2027年3月期 連結通期業績計画について

- 前期比：増収増益の計画
- 三生医薬のれん償却費について、約34億円/年から約9億円/年に減少
- 経常利益には、デリバティブ評価損益を含めていない（前期はデリバティブ評価益を約53億円計上）
- 当期純利益は、前期に減損損失約147億円を計上した影響により、大幅に増益



こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

13

スライド13ページをご覧ください。  
連結の通期計画の概要について、ご説明いたします。

連結売上高は、3,040億円と前期比11.1%の増収、  
売上総利益は、1,140億円と前期比15.0%の増益、  
営業利益は、320億円と前期比38.5%の増益となる計画です。

また、三生医薬の、のれん償却費については、  
年間 約34億円から約9億円に減少しております。

連結経常利益は、300億円と前期比6.8%の増益となる計画です。  
なお、為替相場の先行きが不透明であるため、  
デリバティブ評価損益の影響は計画に含めておりません。

連結当期純利益は、215億円と前期比309.5%の増益となる計画です。  
前期に三生医薬ののれん減損損失を  
約147億円計上した影響で大幅な増益計画となっております。

## 2027年3月期 通期業績計画（連結）

- 売上高は、東和薬品ほかにおいて生産数量の増加により市場への供給数量を増やすこと、三生医薬ほかにおいてニューアプリケーション事業の回復に取り組むこと、Towa INTにおいて欧州BtoCと米国で新製品を発売することから、増収の計画
- 営業利益は、増収に加え、東和薬品ほかにおけるセールスマックスの改善と三生医薬ほかにおける事業ミックスの改善によって売上原価率が低下し、増益の計画

(単位：百万円，%)

	27/3 通期計画			26/3 実績	
	金額	対売上高比率	前期比	金額	対売上高比率
売上高	304,000	100.0	+ 11.1	273,710	100.0
売上原価	190,000	62.5	+ 8.8	174,606	63.8
販管費	82,000	27.0	+ 7.9	76,001	27.8
営業利益	32,000	10.5	+ 38.5	23,102	8.4

スライド14ページをご覧ください。  
連結の通期計画について、ご説明いたします。

連結売上高は、  
「東和薬品ほか」において  
生産数量の増加により市場への供給数量を増やすこと、  
「三生医薬ほか」において  
ニューアプリケーション事業の回復に取り組むこと、  
「Towa INT」において  
欧州BtoCと米国で新製品を発売することから、  
増収を計画しております。

連結営業利益は、増収に加え、  
「東和薬品ほか」におけるセールスマックスの改善と、  
「三生医薬ほか」における事業ミックスの改善により売上原価率が低下し、  
増益を計画しております。

## 2027年3月期 通期業績計画（東和薬品ほか）

- 売上高・セグメント利益は、生産数量の増加に伴い市場への供給数量を増やすことで販売数量が増加、また、近年追補品を拡売する戦略の継続と、最低薬価引き上げが単価上昇に寄与し、増収増益の計画

(単位：百万円, %)

	27/3 通期計画			26/3 実績	
	金額	対売上高比率	前期比	金額	対売上高比率
売上高	213,200	100.0	+ 13.3	188,102	100.0
売上原価	127,300	59.7	+ 11.7	113,962	60.6
販管費	54,400	25.5	+ 13.6	47,903	25.5
セグメント利益	31,500	14.8	+ 20.1	26,236	13.9

- 販売数量計画（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）  
→ **170.0億錠** 対前期**8.2%増加**

- 生産数量計画（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）  
→ **180.0億錠** 対前期**9.5%増加**

27年3月期の東和薬品3工場の年間生産能力は175億錠に増加  
他社への委託も含め、引き続き増産に取り組んでいく

スライド15ページをご覧ください。  
「東和薬品ほか」の通期計画について、ご説明いたします。

売上高およびセグメント利益は、  
生産数量の増加に伴い市場への供給数量を増やすことで販売数量が増加すること、  
近年追補品を拡売する戦略を継続すること、  
また、最低薬価引き上げが単価上昇に寄与することで、  
増収・増益を計画しております。

東和薬品単体の  
販売数量は、170億錠と前期比 8.2%の増加、  
生産数量は、180億錠と前期比 9.5%の増加、  
を予定しております。

27年3月期の東和薬品3工場の年間生産能力は、175億錠に増加しており、  
他社への委託も含め、引き続き増産に取り組んでまいります。

## 2027年3月期 通期業績計画（三生医薬ほか）

- 売上高は、ニューアプリケーション事業において新規顧客開拓と営業活動の強化に取り組むとともに、国内健康食品事業において新製品発売と価格改善に取り組み、増収の計画
- セグメント利益は、増収と、利益率の高いニューアプリケーション事業を回復させることにより事業ミックスが改善して売上原価率が低下し、増益の計画

(単位：百万円，%)

	27/3 通期計画			26/3 実績	
	金額	対売上高比率	前期比	金額	対売上高比率
売上高	31,600	100.0	+ 9.4	28,873	100.0
売上原価	24,800	78.5	+ 4.5	23,727	82.2
販管費	4,800	15.2	+ 12.0	4,285	14.8
セグメント利益	2,000	6.3	+ 132.2	861	3.0

※のれん償却費は含みません。

スライド16ページをご覧ください。  
「三生医薬ほか」の通期計画について、ご説明いたします。

売上高は、  
ニューアプリケーション事業において  
新規顧客開拓と営業活動の強化に取り組むこと、  
国内健康食品事業において  
新製品発売と価格改善に取り組むことで、  
増収を計画しております。

セグメント利益は、増収と、  
利益率の高いニューアプリケーション事業の回復により、  
事業ミックスが改善して売上原価率が低下することで、  
増益を計画しております。

## 2027年3月期 通期業績計画 (Towa INT)

- 売上高・セグメント利益は、欧州BtoCと米国において新製品を発売することにより、増収増益の計画

(単位：百万円，%)

	27/3 通期計画			26/3 実績	
	金額	対売上高比率	前期比	金額	対売上高比率
売上高	60,000	100.0	+ 4.1	57,630	100.0
欧州	38,600	64.3	+ 0.4	38,432	66.7
米国	21,400	35.7	+ 11.5	19,197	33.3
売上原価	38,400	64.0	+ 3.1	37,237	64.6
販管費	21,100	35.2	+ 5.9	19,933	34.6
セグメント利益	500	0.8	+ 8.9	458	0.8

期中レート (TTM)	27/3 想定レート	26/3	期中レート (TTM)	27/3 想定レート	26/3
1ユーロ	177.00円	174.79円	1ドル	154.00円	150.77円

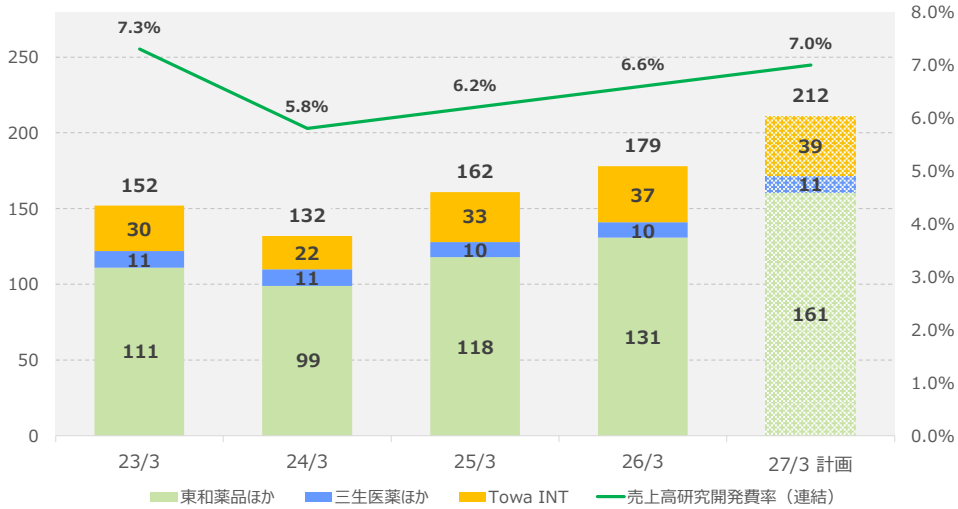
※のれん償却費は含みません。

スライド17ページをご覧ください。  
「Towa INT」の通期計画について、ご説明いたします。

売上高およびセグメント利益は、  
欧州BtoCと米国において新製品を発売することにより、  
増収・増益を計画しております。

## 研究開発費（連結）

（単位：億円）



※グループ間取引消去後の数値を使用しております。

※Towa INTと三生医薬の23年3月期の連結会計年度は2022年1月1日～2023年3月31日の15ヶ月となっております。

※25年3月期より億円未満の端数処理方法を変更しております。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

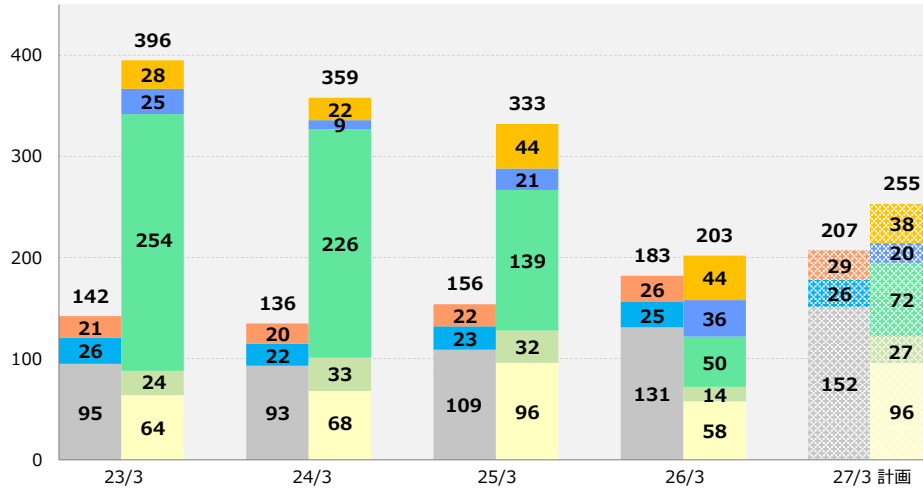
18

スライド18ページをご覧ください。  
研究開発費の通期計画について、ご説明いたします。

東和薬品において、  
主に新製品開発等の研究開発費が増加することにより、  
27年3月期は連結で約212億円と前期比 約33億円の増加となる計画です。

## 設備投資・減価償却費（連結）

（単位：億円）



※設備投資には有形固定資産・無形固定資産の取得を含みます。  
 ※減価償却費には研究開発費分を含みます。  
 ※減価償却費にはTowa INT及び三生医薬ののれん償却費を含みません。  
 ※Towa INTと三生医薬の23年3月期の連結会計年度は2022年1月1日～2023年3月31日の15ヶ月となっております。  
 ※25年3月期より億円未満の端数処理方法を変更しております。

■ 設備投資 (Towa INT)      ■ 設備投資 (三生医薬ほか)  
 ■ 設備投資 (山形工場)      ■ 設備投資 (岡山工場)  
 ■ 設備投資 (その他)      ■ 減価償却費 (Towa INT)  
 ■ 減価償却費 (三生医薬ほか)      ■ 減価償却費 (東和薬品ほか)

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

19

スライド19ページをご覧ください。  
 設備投資・減価償却費の通期計画について、ご説明いたします。

設備投資は、東和薬品において、  
 主に山形工場への設備投資額が増加することから、  
 連結で約255億円と前期比約52億円の増加となる計画です。

減価償却費は、東和薬品において、  
 主に山形工場 第三固形製剤棟に導入した設備が稼働することに伴い、  
 連結で約207億円と前期比約24億円の増加となる計画です。

## 2026年3月発売・2026年6月薬価収載予定新製品 (東和薬品単体)

発売時期 収載予定時期	薬効分類名	販売名	先発・代表医薬品名
2026年3月	抗血小板剤	プラスグレル錠2.5mg/3.75mg/5mg「トーフ」 プラスグレルOD錠20mg「トーフ」	エフィエント®錠 2.5mg/3.75mg/5mg エフィエント®OD錠20mg
2026年6月	経口血小板増加薬/ トロンボポエチン受容体作動薬	エルトロンボバグ錠12.5mg/25mg「トーフ」	レボレード錠12.5mg/25mg
	抗てんかん剤	ラコサミド錠50mg/100mg「トーフ」 ラコサミドDS10%「トーフ」	ビムパット錠50mg/100mg ビムパットドライシロップ10%
	多発性硬化症治療剤	フィンゴリトドカプセル0.5mg「トーフ」	イムセラカプセル0.5mg/ ジレニアカプセル0.5mg
	選択的SGLT2阻害剤 -2型糖尿病治療剤-	ダバグリフロジン錠5mg/10mg「トーフ」	フォシーガ錠5mg/10mg
	持続性選択H1受容体拮抗・ アレルギー性疾患治療剤	デスロラタジンOD錠5mg「トーフ」	デザレックス錠5mg (剤形違い)
	アレルギー性疾患治療剤	ピラスチンOD錠20mg「トーフ」	ピラノAOD錠20mg
	抗精神病薬	アリピラゾール錠1mg「トーフ」 アリピラゾール内用液1mg分包「トーフ」	エビリファイ錠1mg エビリファイ内用液0.1%

6月薬価収載では7成分12品目を上市予定

**3月に発売を開始したプラスグレルを合わせた  
8成分16品目合計で初年度売上 約138億円を計画しております。**

スライド20ページにて、  
26年3月販売および26年6月薬価収載予定の新製品をお示しております。

27年3月期は、  
3月に発売を開始したプラスグレルを合わせた8成分16品目合計で  
約138億円の売上となる計画です。

## 減損損失の計上について

- 2026年3月期決算に、三生医薬ののれん減損損失約147億円を計上
- 2027年3月期以降ののれん償却費は、約34億円/年から約9億円/年に減少（2032年3月期まで）

	買収時からの環境変化・課題	今後の取り組み
国内健康食品事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>収益性の悪化</b> 新型コロナ流行による事業活動低迷 紅麹問題による国内市場の縮小 物価高騰による費用増加</li> <li>・<b>東和薬品とのシナジー創出の遅れ</b> 新型コロナ流行による事業活動低迷 事業戦略策定・製品共同開発の遅れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な新製品の発売</li> <li>・売価の適正化による収益性改善</li> <li>・工場の稼働率改善、生産効率向上</li> <li>・東和薬品グループとのシナジー形成に向けた取り組みの継続</li> </ul>
医薬品事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>東和薬品とのシナジー創出の遅れ</b> 新型コロナ流行による事業活動低迷 ユニオーブ技術を活用した医薬品開発の遅れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東和薬品グループとのシナジー形成に向けた取り組みの継続</li> </ul>
ニューアプリケーション事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>海外における競争環境の悪化</b> 競合他社の品質向上・低価格・短納期による受注減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存顧客への営業活動の強化</li> <li>・新規顧客開拓</li> </ul>

スライド22ページをご覧ください。  
三生医薬ののれん減損損失の計上について、ご説明いたします。

国内健康食品事業で収益性が低下したこと、  
ニューアプリケーション事業で競争環境が悪化したこと、  
東和薬品とのシナジー創出が遅れたことにより、  
想定を大きく下回る状況となりました。

これに伴いまして、三生医薬の将来キャッシュ・フローを見直した結果、  
回収可能価額が帳簿価額を下回る見通しとなり、  
連結決算で のれんの減損損失を約147億円計上いたしました。

スライドの表には買収時からの環境変化や課題、  
今後の取り組みについて、記載しております。

**第6期 中期経営計画 2024-2026 PROACTIVE III  
主要項目の計数目標の進捗状況**

● 2027年3月期計画を踏まえた計数目標の進捗状況について

売上高は達成見込み、営業利益は目標を若干下回る見通し

さらなる増産に向けて目標を上回る設備投資を実施したことや、安定供給のための棚卸資産増加により、有利子負債が想定よりも増加したため、ROICは目標を下回る見通し

	計数目標	進捗状況・見通し
売上高 (最終年度)	[連結] 3,000億円達成 [単体] 2,000億円達成	[連結] 3,040億円 [単体] 2,080億円
営業利益 (累計)	[連結] 800億円以上	[連結] 783億円
ROIC (最終年度)	[連結] 6%以上 (のれん影響あり) 7%以上 (のれん影響なし)	[連結] 5.3% (のれん影響あり) 5.9% (のれん影響なし)
研究開発費 (累計)	[連結] 550億円以上	[連結] 554億円
設備投資 (累計)	[連結] 600億円以上	[連結] 793億円

スライド23ページをご覧ください。

第6期 中期経営計画における主要項目の計数目標の進捗状況について、ご説明いたします。

最終年度の売上高は、連結および単体ともに、計数目標を達成する見込みとなっております。

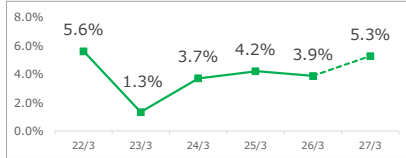
3年累計の連結営業利益は、25年5月に目標を680億円以上から800億円以上へ上方修正しておりますが、現時点では、その修正後の目標を若干下回る見通しとなっております。

ROICは、さらなる増産に向けて目標を上回る設備投資を実施したこと等により、有利子負債が想定よりも増加したため、計数目標を下回る見通しとなっております。

設備投資額は、先ほどのご説明の通り、増産に向けた先行投資により、増加しております。

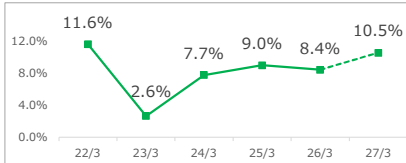
## 企業価値向上に向けた取り組み 現状分析と今後の方針

ROIC



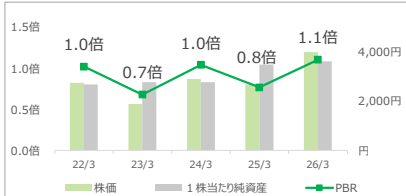
- 中計当初の想定と比較すると営業利益は増加しておりますが、さらなる増産に向けた設備投資の増加や安定供給のための棚卸資産増加により当初想定よりも有利子負債が増加し、ROIC目標6%※の達成は厳しい状況です。
- 今後、営業利益の改善や資本コストを意識した投資案件の管理によって、有利子負債を適正化することが重要であると認識しております。  
※WACC5.5%程度、株主資本コスト8.5%程度と認識（26年3月期）

営業利益率



- 24年3月期以降の営業利益率は改善傾向にありますが、26年3月期は三生医薬ほかにおいて事業ミックスが悪化したこと等により売上原価率が上昇し、営業利益率も悪化しました。
- 27年3月期は、東和薬品ほかにおけるセールスミックスの改善と三生医薬ほかにおける事業ミックスの改善に取り組むことで売上原価率が低下し、営業利益率は改善する計画としております。

PBR



- 薬価制度改革などを背景としたジェネリック医薬品業界への期待感および当社製品への需要の高まりや、ステークホルダーとの対話の強化により株価が上昇し、26年3月期末時点でPBRは1倍を超えました。  
2月に株価4,410円をつけ上場来高値更新（4月に再更新：4,490円）  
セルサイドアナリスト2社の新規カバーレッジ開始
- 引き続きステークホルダーとの対話を強化し、得られたご意見・ご指摘を経営陣へフィードバックすることで、企業価値向上に向けて取り組んでまいります。  
IR個別面談数：108件（26年3月期末実績）

スライド24ページをご覧ください。  
企業価値向上に向けた取り組みとして、  
現状分析と今後の方針についてご説明いたします。

ROICは、中計当初と比較すると営業利益は増加しておりますが、先ほどもご説明した通り、目標である6%の達成は厳しい状況です。今後、営業利益の改善や資本コストを意識した投資案件の管理によって、有利子負債を適正化することが重要であると認識しております。

営業利益率は、24年3月期以降、改善傾向にありますが、26年3月期は「三生医薬ほか」で事業ミックスが悪化したこと等により売上原価率が上昇し、営業利益率も悪化しました。27年3月期は、「東和薬品ほか」におけるセールスミックスの改善と「三生医薬ほか」における事業ミックスの改善に取り組むことで売上原価率が低下し、営業利益率は改善する計画としております。

PBRは、薬価制度改革などを背景としたジェネリック医薬品業界への期待感及び当社製品への需要の高まりや、ステークホルダーとの対話の強化により株価が上昇し、26年3月期末時点でPBRは1倍を超えました。引き続きステークホルダーとの対話を強化し、企業価値向上に向けて取り組んでまいります。

## アドラゴスファーマ川越・三和化学研究所との協業について

### ● アドラゴスファーマ川越

特許満了医薬品の安定供給に向けた協業体制の構築に関する基本合意を締結  
2029年までに約5億錠規模、2033年までに約15億錠規模の製造委託を予定

目的	特許満了医薬品の安定供給に向けた製造キャパシティの確保と相互バックアップ体制の構築
手法	アドラゴスファーマ川越への製造委託により、自社の製造キャパシティを確保する。 両社ともに効率的な生産体制を構築しつつ、相互にバックアップ生産ができる体制を構築する。
時期	2026年4月以降、両社が合意した委受託品目の生産準備が整い次第順次スタート

### ● 三和化学研究所

特許満了医薬品の安定供給に向けたバックアップ生産体制の構築に関する協業について合意  
2028年度までに約7億錠規模の製造委託を予定（2025年度時点で1品目を委託中）

目的	特許満了医薬品の安定供給に向けた製造キャパシティの確保と相互バックアップ体制の構築
手法	三和化学研究所への委託製造により、自社製造キャパシティを確保する。 両社ともに効率的な生産体制を構築しつつ、相互にバックアップ生産ができる体制を構築する。
時期	両社が合意した委受託品目の生産準備が整い次第順次スタート

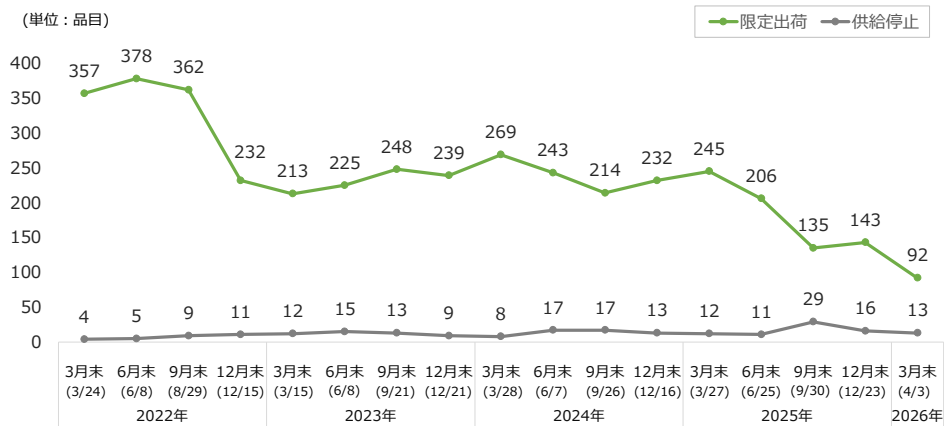
スライド25ページをご覧ください。  
アドラゴスファーマ川越および三和化学研究所と  
協業体制の構築に関する基本合意を締結いたしました。

アドラゴスファーマ川越とは、2029年までに約5億錠規模、  
2033年までに約15億錠規模、

三和化学研究所とは、2028年度までに約7億錠規模の  
製造委託を予定しております。

## 限定出荷品目数の推移

- 2026年4月時点の限定出荷品目数は92品目と、2025年3月末から153品目減少
- 2025年8月に自主回収を発表した注射用アンプル製品16品目について、2026年4月時点で全15品目（販売中止1品目を除く）が通常出荷



※2025年12月より限定出荷および供給停止品目数には薬価削除予定品目を含みます。

スライド26ページをご覧ください。  
限定出荷品目数の推移をお示ししております。

2026年4月時点の限定出荷品目数は92品目と、  
2025年3月末時点の245品目から153品目減少しております。

また、2025年8月に注射用アンプル製品16品目の自主回収を発表いたしましたが、  
2026年4月時点で販売中止となった1品目を除き  
全15品目が通常出荷となっております。

最後に スライド27ページからスライド44ページにて、参考資料を記載しております。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。  
ご清聴いただきありがとうございました。

## 【質疑応答要旨】

※ご参考として、決算説明会における質疑応答の内容を要約したものです。

Q：27年3月期の計画が増収増益となる要因は何か。最低薬価引き上げ・新製品発売・既存顧客の戻りが寄与すると推測するが、内容を教えて欲しい。

A：27年3月期は、プラスグレルを含む新製品の売上計画が約138億円と例年よりも大きい。プラスグレルの影響で近年よりも大規模な売上計画となった。また、新製品以外の製品の新規納品率は、過去実績と同水準でチャレンジングな目標ではない。なお、4月の薬価改定に向けて1月から営業活動を行っているが、限定出荷品目数が昨年の240品目以上から直近では92品目まで減少しており、医療機関からの見方は大きく変わったと感じている。薬価改定時の当社製品への切替えは想定通りに進んでいる。

Q：プラスグレルについて、競合である第一三共エスファの売上計画を見ると、御社ほど強い計画でないように見えるが、何が違うのか。

A：弊社はMR数が非常に多く、きめ細かい営業活動を行っていききたい。プラスグレルは現在適応不一致だが、6月中に適応一致を予定しており、フォローアップを行って計画達成を目指す。

Q：「三生医薬ほか」の業績不振が株価下落に影響を与えたと思う。27年3月期は約11億円の増益を見込んでいるが、ニューアプリケーション事業において競争環境が悪化する中、計画通りに回復するのか教えて欲しい。

A：(ニューアプリケーション事業) 三生医薬はソフトカプセルの技術力を有しており、海外メーカーの製剤技術や品質を超えた製品を作ることで、品質を重視する会社から選んでいただいている。ニューアプリケーション事業では主にフレーバーカプセルを取り扱っており、収益性が高い事業だが、26年3月期は海外で価格競争の環境悪化による既存品での失注が発生した。製造キャパシティの関係から新規営業を控えていたが、26年3月期2Qから再開しており、27年3月期の業績には寄与すると見込んでいる。

(国内健康食品事業) 売上高が伸長したものの、収益が伸びないという課題を抱えている。27年3月期は原価低減策や適正価格販売の推進を実施し、25年3月期の収益水準まで回復すると見込んでいる。

Q：27年3月期計画の研究開発費が対前年で大きく増加しているが、要因は何か。

A：「東和薬品ほか」における研究開発費の増加が影響しており、新製品開発に伴う原薬単価・

臨床費用の増加とニトロソアミン対策費用が増加している。

Q：委託も含めた中長期的な増産計画について、いつ開示していただけるのか。

A：中長期的な増産計画は来年5月～6月頃の次期中計発表時を予定していたが、前倒しで開示できないか社内で調整している。ただ、3工場の効率化と協業による増産という基本方針は変わっていない。数量の精査に少し時間を要している。

Q：大塚製薬との協業に始まり、追加で2社との協業も発表された。未発表の案件もあると思うが、引き続き積極的に協業先を増やすのか。

A：新しい形の協業として3社との協業を発表した。広範囲で話を進めており、もう少しすれば発表できる時期が来ると思う。医薬品産業を「特許期間中の医薬品」と「それ以外の医薬品」に分け、AG・長期収載品・GEと区分するのではなく、特許満了後の医薬品を1つの市場と捉えている。治療上必要な医薬品を製造管理・品質管理が担保された状態で安定供給することがあるべき姿だと思っており、それに従って協業を進めている。現時点での発表内容に基づくと、自社の175億錠に委託による+20億錠程度で約200億錠になる。当社の生産効率を改善することで、更に50億錠は増産できると考えている。今の需要がどこまで続くか分からないが、状況を確認しながら、体制づくりを進めていきたい。

Q：特許満了医薬品を1つの市場と捉えた場合、AG・長期収載品・GEの垣根がなくなるが、既存の新薬メーカー工場とも協業する可能性があるのか。

A：特許満了後の医薬品を1つの市場と捉える考え方が、あるべき姿ではないかと思っている。現在は長期収載品・AG・GEなどいろいろな名称があるが、G1・G2ルールの改正、長期収載品より薬価が高くなった製品の体制加算など、薬価制度は非常に複雑化している。弊社は、治療上必要な医薬品の安定供給するための施策を考え、理解を得た企業から順に話を進めている。

Q：27年3月期は販売数量が伸長する計画だが、アドラゴス・三和化学への委託がある中で、中期的な生産および販売数量の計画はどう考えているのか。

A：明確な数量はお示しできないが、基本的には協業による委託数量の増加を進める。今期も三和化学には一定の委託をしているが、本格的な委託製造の開始には時間が掛かる見込みである。

Q：Towa INTにも減損の兆候があるのか。Towa INTは円ベースでは売上高が伸びているが、現地通貨ベースでは減収となっている。

A：現時点で減損の兆候はない。米国は価格引き下げの圧力が厳しいが、薬局から病院、数量から価値へと移行しており、病院向けの製品や新製品など、利益を出せるような販売戦略を進めている。

欧州は、GE 置換え率が30%後半から40%台と低く、ジェネリック医薬品市場が伸びる余地があり、米国のような価格引き下げ圧力もない。薬局向けに加えて病院向けの製品に注力していく。また、26年3月期はデュロキセチンにおけるニトロソアミン問題があったが、25年11月に改良製品の申請を行い、既に1カ国で承認を得ており、27年3月期は他の国でも得られる見込みで伸びしろがある。

Q：協業によって委託数量が増加する中、原価率を下げない取組みをするとの説明があったと思うが、具体的にどういう取組みを行うのか。

A：品目数の多さが生産効率悪化の要因の一つであるため、製造品目の適正化を通じて自社の生産効率を改善できると見込んでおり、委託数量が増加することによる原価率悪化を補っていききたい。

Q：政府が安定供給に対する基金を創設した。27年3月期はこの基金の利用を検討しているのか。

A：ジェネリック医薬品の品目統合に対してのみ基金が使われると認識している。現状、当社の協業の取組みでは基金が活用できるか少し難しいという印象である。

Q：27年3月期の「東和薬品ほか」の販管費について、売上高比率は上期が26.0%で下期が24.6%だが、上期が高くなっている要因を教えてください。

A：販管費の金額は上期・下期ではほぼ同額である。GE事業は売上高が下期偏重であるため、比率が異なっている。なお、販管費は人件費やシステム関連費用が増加している。